NIE実践報告

1．タイトル：受験生が取り組んだNIE

2．学校名

熊本県立人吉高等学校

3．実践者名（代表者名）

楠田　美和

4．学年

第3学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

総合的な学習の時間　292人

6．単元（本時の学習課題）名

「山口県光市母子殺害事件」差し戻し控訴審判決に思う

7．目標(狙い)

①複数の新聞の社説を読み比べそれぞれの主張の相違点を理解するとともに自分の考えを明確にする。
②単に賛成・反対を述べるだけでなく、そこから社会問題に対して自分なりの提言を行う。

8．評価の視点

①それぞれの社説の主張を理解し、それをふまえた上で自分の主張を述べているか。
②判決に対する賛否から、さらに問題を提起するなど自分の考えを発展させているか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

①「山口県光市母子殺害事件」差し戻し控訴審判決に思う(小論文、3時間)
②新聞1面、社説の読み比べ―メディアリテラシーを身に付ける―(班活動、講演、3時間)
③うち採点がられた記事についてスピーチしよう(スピーチ、4時間)　計10時間

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

①「山口県光市母子殺害事件」差し戻し控訴審判決(犯人の元少年に死刑判決)についての読売新聞と朝日新聞の社説を要約する。(1時間)
・留意点:生徒が要約しやすいように、まず、それぞれの主張を比較するワークシートを作成し、取り組ませる。したがって、主張の比較しやすい社説を選ぶことが大事。
②①をふまえ、さらに読売、朝日、毎日新聞の解説記事を読んで、この判決についての自分の意見をまとめる。さらに、現在の社会問題に気づき、それについての自分なりの意見もまとめる。(1時間)
・留意点:どちらかの社説の焼き直しにならないよう指導する。また、社会問題への気づきが生まれるよう解説記事を利用して支援する。
③前時までの取り組みをふまえ、「『山口県光市母子殺害事件』差し戻し控訴審判決に思う」と題し、800字程度の小論文にまとめる。(1時間)
・留意点:序論、本論、結論をどのように展開していくとよいか、ある程度の型を示し、生徒が取り組みやすいようにする。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

・生徒の反応
オリジナルのワークシートを作成し、取り組みやすいように手だてをしたので、みんな真剣に、積極的に取り組んでいた。
感想では、「複数の社説を読み比べるということを初めてやった。やはり、それぞれ主張が違っていておもしろ

12．成果と課題

・成果:小論文を書く前に、社説を要約したり自分の考えをまとめさせたりしたので、思ったよりスムーズに小論文を書けたようである。また、じっくり社説を解説しながら読んでいったことで、社説に対する抵抗感が薄らいだ生徒も多かった。また、題材も同年代の少年が犯した犯罪ということで、考えやすかったようである。
・課題:社説の焼き直し、社会問題への気づきがなかった生徒も少なくなかった。また、ワークシートに時間がかかり、小論文まで行き着けなかった生徒も見られた。「書けない」「気づけない」生徒へのさらなる指導が今後の課題である。